

災害時の保健・医療・福祉分野の連携強化検討会

日時 令和7年11月5日（水）

15:30 - 18:30

場所 厚生労働省省議室（9階）

議事要旨

出席者

【構成員】

市川 学	芝浦工業大学システム理工学部教授
植田 信策	日本赤十字社医療事業推進本部参事監兼救護・福祉部主幹
尾島 俊之	浜松医科大学医学部教授
久保 達彦	広島大学大学院医系科学研究科教授
近藤 久禎	国立健康危機管理研究機構危機管理・運営局DMAT事務局次長
鈴木 伸明	群馬県社会福祉協議会 災害福祉支援センター長 群馬県災害福祉支援ネットワーク事務局 / ぐんま DWAT 事務局
早川 貴裕	栃木県保健福祉部医療政策課 主幹 全国 DHEAT 協議会幹事長
人見 嘉哲	北海道保健福祉部技監
細川 秀一	日本医師会常任理事

【オブザーバー】

厚生労働省 医政局 地域医療計画課
厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課
内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（避難支援担当）付
内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（災害緊急事態対処担当）付

【厚生労働省】

佐々木大臣官房危機管理・医務技術総括審議官、
荒木厚生科学課長

議事

1. 本検討会の進め方
2. 厚生労働省における保健医療福祉活動チームの連携組織とその機能のあり方
3. 自治体における保健医療福祉活動チームの連携に向けた準備事項
4. 自治体における保健医療福祉活動チーム間連携に資する合同訓練の素案

議事概要

1. 検討会の趣旨、議題内容について、厚生労働省から説明。
2. 構成員、オブザーバーの各専門領域の観点から議論。主な議論内容は以下のとおり。

【議題2】

1. 平時の整理・準備について
 - ・各活動チームの役割分担や活動フェーズごとの整理が必要。現場実務を担うチーム（DMAT 等）と本部支援チームは性格が異なるため、支援先や目的を明確化するべき。
 - ・平時から各チームの情報収集・連携体制構築の必要性が強調された。顔の見える関係作りや、情報共有の仕組み、定期的な会議体の設置が重要。
 - ・標準的組織形態（ICS 等）や業務様式の標準化を進めるべきという意見もあった。
2. 災害発生時の対応について
 - ・発災直後※から、厚生労働省の保健医療福祉活動支援チーム（仮称）に、助言のみならず、財源に係る調整を含めた都道府県の支援をしてほしい。
 - ※保健医療福祉活動支援チーム（仮称）の発動条件は、実践を積むためには災害の種類・規模の大小に限らず、発動すべきとの意見の一方、災害救助法の適用、初動の DMAT の派遣が基準になるという意見もあった。
 - ・市町村・都道府県・国別、保健医療福祉分野別に、連携先を整理する必要がある。
 - ・現場の活動チームと保健医療福祉活動支援チーム（仮称）の役割分担をする必要がある。
3. 体制整備・情報共有について
 - ・他省庁等との連絡窓口は、混乱がないように支援チームが窓口となるよう整理が必要である。
 - ・保健医療福祉調整本部の所管は、保健福祉部の原課ではなく、総務課が担っているケースが多いので、平時から支援チームもそこと繋がっている必要がある。
 - ・災害の種類・規模に応じて、保健医療福祉調整本部に円滑に情報提供できるように

情報ルートを整理する必要がある。

4. その他

- ・経緯があって、DMAT が医療以外も属人的に調整してきたが、今 DHEAT が連携し始めている。国に各チームの質向上に努めて欲しい。
- ・DHEAT は都道府県職員であり、基本的には被災都道府県の職員として溶け込むイメージである。保健医療福祉活動支援チーム（仮称）として国の立場で入ると、厚生労働省との関係性の整理が難しい。
- ・DWAT の体制が 47 都道府県で整ったのは能登震災中。在宅など既存の動きを活かしつつ、フォローするコーディネートチームのような仕組みを目指しているが、全国的には整っておらず、指揮系統も都道府県ごとにバラついている。DMAT、DHEAT とどう連携するのかが喫緊の課題と考えている。
- ・DWAT について、初動が遅い。必要なタスクを検討会で整えていきたい。

【議題 3】

自治体において平時より準備、備えておくべき事項について

- ・耐久性のない医療施設、社会福祉施設の把握とその優先度が重要である。
- ・平時と有事で防災・災害対応所管が異なるので、各々の所管を共有する必要がある。
- ・本部組織の標準的な形態や、会議資料、アジェンダの標準様式を例示していく必要がある。
- ・災害時の情報セキュリティの在り方を検討する必要がある。
- ・外部の支援者にもわかるように、共有情報（難読地名、現地での地域の呼び名、活動チームで用いている略語など）を整理し、共通言語を用いることが必要である。
- ・職員の健康管理の観点では、疲労が大きい理由として災害時の指揮系統の不明確の割合が高い。疲労度の高い状態は、事故、業務ミス、職員の退職に繋がるので職員の健康サポートが必要である。

【議題 4】

合同訓練プログラムについて

- ・訓練に CSCATTT の要素を取り入れ、計画を立てると良いだろう。
- ・訓練においても用語の統一が必要である。
- ・訓練素案については、県単位、保健所単位、市町村単位の 3 階層で内容を整理した素案があるとよい。
- ・用語の整理の観点では、指揮命令の命令は言葉としてきつく、指揮調整が適当である。